

より良い景観検討のためのカルテ（チェックシート）

記入年月日：令和5年9月25日

チェック担当課：道路整備課

事業の概要	
事業名	御社橋（市道275号）拡幅整備事業
事業個所・対象地	川西市多田院1丁目外地内
事業期間	平成29年～令和9年5月（予定）
事業の対象となる 公共施設等	<input checked="" type="checkbox"/> 道路 <input checked="" type="checkbox"/> 橋梁 <input checked="" type="checkbox"/> 河川・水路 <input type="checkbox"/> 公園・緑地 <input type="checkbox"/> 公共建築物等
事業に含まれる要素 （個別指針より）	<input type="checkbox"/> 法面・斜面 <input type="checkbox"/> 擁壁 <input checked="" type="checkbox"/> 護岸 <input checked="" type="checkbox"/> 舗装 <input checked="" type="checkbox"/> 附属施設（防護柵、公共サイン） <input type="checkbox"/> 建築物
構想・計画段階（各事業共通）	
項目1	景観形成の指針を把握する。
項目2	共通指針（全体指針A-1～A-5、B-1～B-5）の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮する事項を記入する。
(例) A-2	(例) 当該地の自然植生を調査し、計画に反映する。
A-1	御社橋が多田神社の参道として位置付けられていることから、多田神社や文化財の専門家と協議し、景観形成を検討する。
A-2	河川内の地形改変を抑えることを意識して設計を行う。
B-1	景観上の不調和を招かないように、占有者と協議し、景観形成を図る。
B-3	猪名川の河川景観と一体となるように意匠を検討する。

設計・施工段階 / 道路		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
□	緑地帯等の緩衝スペースの活用を検討するなど、河川敷側から見た景観に加えて、道路から見た時の景観も考慮し、良好な眺望景観の保全や活用を図ることができる計画を探る。	
□	斜面・法面は、河川景観を妨げない配置や構造の検討を行うなど、河川への眺望景観を保全する。 【具体的配慮事項】 緑化修景の採用	
☑	舗装は、河川景観の各区間の景観特性に配慮し、過剰なデザインを避けるなど、調和のとれた景観の形成を図ることができる計画を探る。	石畳み風の舗装を採用し、多田神社への参道としての景観形成を図る。
☑	付属施設は、河川景観を妨げない配置や構造の検討を行うなど、河川への眺望景観を保全する。 【具体的配慮事項】 ガードパイプの色彩 ダークブラウン 10YR2.0/1.0 程度	落ち着いた色彩を選定し、自然景観との調和を図る。 【検討例】 ガードパイプの色彩 ダークブラウン 10YR2.0/1.0 程度

設計・施工段階 / 橋梁		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
☑	<p>橋梁からの眺望景観を積極的に創出するなど、河川景観の各区間の特徴（川幅や地形等）を調査し、河川の眺望に違和感を与えないように最大限配慮した計画を探る。</p> <p>【具体的配慮事項】 視対象としてシンボル性を確保するか調和を優先するかの入念な検討</p>	河川景観と調和するよう、現橋と同様に眺望に配慮した設計とする。
☑	高欄は、過剰な装飾や高彩度の色彩は避け、シンプルで落ち着いた色彩となるように配慮する。	現橋と同様の眺望性が高く、景観に馴染むようなデザインを検討する。
☑	桁側面や橋脚は、周辺からの見え方に配慮し、軽やかで調和のとれたデザインを検討する。	学識経験者の意見を参考に、既存の景観に配慮することを検討する。

設計・施工段階 / 河川・水路		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
☑	安全性に支障のない範囲で石材等の自然素材を活用するなど、河川の各区間の景観の特徴との調和を図ることができる計画を探る。	護岸の石材や工法について、猪名川の河川景観及び多田神社の文化的な景観との調和が図られるよう検討する。
☐	水門、桶門の形態、意匠、色彩は、周辺景観との調和に配慮する。	
☐	柵は、歩行者の水辺への眺めを妨げないように、出来る限りシンプルな形状で検討する。 【具体的配慮事項】 安全に配慮された透視性のある防護柵の採用	
☐	河川標識、案内板は、デザインの統一化を図り、控えめでシンプルなデザインとるなど、景観上影響が少なく、わかりやすい位置への設置を検討する。	